

鈴木裕子 編・解説

日本女性運動資料集成

全10巻 別巻1



女たちの近代を女たち自身の運動によって記録する
女性史研究にとって待望の基本資料集

全巻完結

本体価格 各1万5000円

丕出版



第1巻 思想・政治Ⅰ

女性解放思想の展開と婦人参政権運動

- 第一編 女権運動の展開 治安警察法改正運動
- 第二編 「家」制度への抵抗 青鶴社と新婦人會 デモクラシー運動と女性 無産婦人芸術連盟
- 第三編 新婦人協會と赤澤會 新婦人協會と赤澤會の周辺 婦人参政問題と市民的な女性運動
- 第四編 婦選獲得同盟の結成 関東大震災と東京連合婦人會 婦人参政権獲得期成同盟会の結成 婦選運動の統一

第2巻 思想・政治Ⅱ

婦選運動の「方向転換」

- 第五編 婦選運動の多極化 婦選共同闘争の展開 全日本婦選大会の開催 婦人参政同盟と婦人同志會 新聞報道にみる婦選問題・婦選運動
- 第六編 婦選運動の時局協力 「満州事変」後の婦選運動 「非常時」下の婦選運動 選挙公正運動への参加 新聞報道にみる婦選運動 「支那事変」の勃発と婦選運動の時局協力 婦選獲得同盟の解散と婦人時局研究会 戦局の拡大と婦選運動の解体

第3巻 思想・政治Ⅲ

帝国主義への抵抗運動

- 第七編 女子学生の運動 女子学生の左翼運動 女子学生 女学生の盟休 女子学生連盟の運動 女子学生と女性共産黨員
- 第八編 三・一五、四・二六事件と女性共産黨員 三・一五事件女性被害者の調査 四・二六事件女性被害者の調査 新聞報道・手記
- 第九編 弾圧下の女性共産黨員群像 「赤旗」等による女性共産黨員活動 官憲側資料にみる女性共産黨員 新聞報道にみる女性共産黨員 手記
- 第一〇編 戦時下の諸抵抗 かりがね會と安賀君子らの反戦活動 長谷川テルらの抗日反戦活動 ソルゲ事件の女たち 草の根の反戦・厭戦運動
- 第一一編 在日外国人女性の運動 在日朝鮮人・台湾人女性の運動

第4巻 生活・労働Ⅰ

女性労働者の組織化

- 第二編 女性労働運動の黎明 女性労働問題の本格化 友愛會婦人部 女性と米騒動
- 第三編 無産婦人運動の勃興 足尾争議の「女房」たち 覚醒婦人協會と神戸の無産婦人運動 醒光婦人會と大阪の無産婦人運動 藤田農場争議の「女房」たち 労働婦人同盟・婦人無産會
- 第四編 日本労働総同盟婦人部の確立と分裂 総同盟の婦人部再建活動 第二次分裂後の総同盟婦人部
- 第五編 日本労働組合評議會婦人部の確立 労働組合婦人部・婦人同盟論争 婦人部組織の確立と拡大
- 第六編 広がる女性労働運動と労働争議 女性と労働組合運動の進展 広がる女性労働運動 女性と労働争議
- 第七編 無産婦人団体の誕生と分立 関東婦人同盟 全国婦人同盟 労働婦人連盟 社会婦人同盟 新聞報道にみる無産婦人団体

第5巻 生活・労働Ⅱ

無産婦人運動と労働運動の昂揚

- 第八編 無産婦人団体の再編と昂揚 左派「婦人同盟」 関東婦人同盟の解散 中間派「婦人同盟」の再編と無産婦人同盟の誕生 右派「婦人同盟」の再編と社会民衆婦人同盟の誕生 新聞報道にみる無産婦人団体
- 第九編 労働組合婦人部組織の三派分立 女性労働運動概観 「健全」派総同盟婦人部の確立 中間派の労働組合婦人部活動 日本労働組合全国協議会の女性活動
- 第二〇編 女性を中心とした労働争議の昂揚 女性と労働争議概観 年次別争議事例

第6巻 生活・労働Ⅲ

十五年戦争と女性労働者

無産婦人運動

- 第二一編 「満州事変」と無産婦人運動 無産婦人同盟と「満州事変」 「満州事変」と社会民衆婦人同盟の分裂 日本国家社会婦人同盟の創立 社会民衆婦人同盟の創立と活動 新聞報道にみる無産婦人団体
- 第二二編 戦時期の労働組合婦人部活動 戦時期の女性労働運動概観 戦時期の労働組合婦人部活動
- 第二三編 戦時期の労働争議 女性を中心とした労働争議概観 年次別争議事例
- 第二四編 産業報國運動と女性労働者 産業報國運動の創立 大日本産業報國会の創立と女性労働者
- 第二五編 勤労勤民と女性 女性と勤労勤民をめぐる状況 女子勤労勤民と女子挺身隊

第7巻 生活・労働Ⅳ

生活・労働の現場での女性運動

- 第二六編 職業婦人の組織と運動 広がる職業婦人問題 職業婦人の団結
- 第二七編 農村女性の組織化と小作争議 日本農民組合婦人部の創立 農民自治会婦人部 農民戦線の分立と婦人部
- 第二八編 婦人水平社の創立 全国水平社の創立と婦人水平社 機関誌にみる女性問題論議と婦人水平社員的主張
- 第二九編 消費組合運動 女性を主とした消費組合運動 機関誌にみる「女性と消費組合」運動 「米とこせ」運動と女性
- 第三〇編 産児調節運動 産児調節運動の発展と労働者産児調節運動 産児調節運動の昂揚と分裂
- 第三一編 母子扶助法制定運動 母子扶助法制定促進會 社会民衆婦人同盟等の母子扶助法制定運動 母性保護連盟
- 第三二編 無産者託児所運動 日本労働救済會と無産者託児所 各地の無産者託児所運動

第8巻 人権・廃娼Ⅰ

自由廃娼運動と廃娼連盟の創立

- 第三三編 初期廃娼運動と自由廃娼運動 全国廃娼同盟會 群馬の廃娼運動 自由廃娼運動 廓清會の創立 飛田遊廓設置反対運動 廃娼運動の組織的展開 廃娼パンフレット 廃娼運動の進展
- 第三四編 廃娼連盟の創立 全国公娼廃止期成同盟會の創立 吉原遊廓等再興反対運動 廃娼連盟の創立 廃娼運動の昂揚 廃娼パンフレット

第9巻 人権・廃娼Ⅱ

廃娼運動の昂揚と純潔運動への転化

- 第三五編 廃娼運動の全国的展開 新聞報道にみる廃娼運動の昂揚 廃娼連盟第二期運動の展開 「婦女禁売」問題と廃娼運動
- 第三六編 芸妓争議 娼妓争議 芸妓争議
- 第三七編 廃娼運動と国民純潔同盟の創立 公娼制度対策 「非常時」下の廃娼運動 国民純潔同盟の創立
- 第三八編 純潔報國運動と時局協力 純潔報國運動の展開 廃娼団体の時局協力 純潔報國運動の展開

第10巻 戦争

官製婦人団体による運動と戦争体制への動員

- 第三九編 日中戦争の開始と婦人報國・統後運動 統後 国家女性団体の相次ぐ結成と活動 大日本連合婦人會の創立と非常時女性訓練運動 東京連合婦人會 全関西婦人連合會の統後活動 愛国婦人會と婦人報國運動
- 第四〇編 大日本国防婦人會の結成と活動 大日本国防婦人會の結成 大日本国防婦人會の発展 「支那事変」後の国婦 国婦埼玉県関係文書にみる活動
- 第四一編 大日本婦人會の創立と活動 新聞報道にみる日婦
- 第四二編 国民精神総動員運動と女性 「支那事変」勃発と官製婦人運動の活発化 女性国策委員の登場 「国民精神総動員」にみる女性報國・家庭報國 新聞報道にみる女性の統後・精勤運動 大政翼賛運動と女性 大政翼賛會の創立と女性 中央協力會議議事録にみる女性問題論議 大政翼賛運動と女性
- 第四三編 大政翼賛運動と女性

別巻 索引

人名・団体名・執筆署名索引／日本女性運動史人名事典





●右から—
・婦選獲得同盟で活躍した山高しげり
・一九三〇年岸和田紡績のストライキ
・一九三〇年、総同盟婦人部の赤松常子と賀川豊彦

フェミニズム運動の原点を検証する

刊行にあたって

❖ 本資料集は、近代日本で活動・活躍したさまざまな女たちの記録を集め、近代女性史の全体像を明らかにするものです。

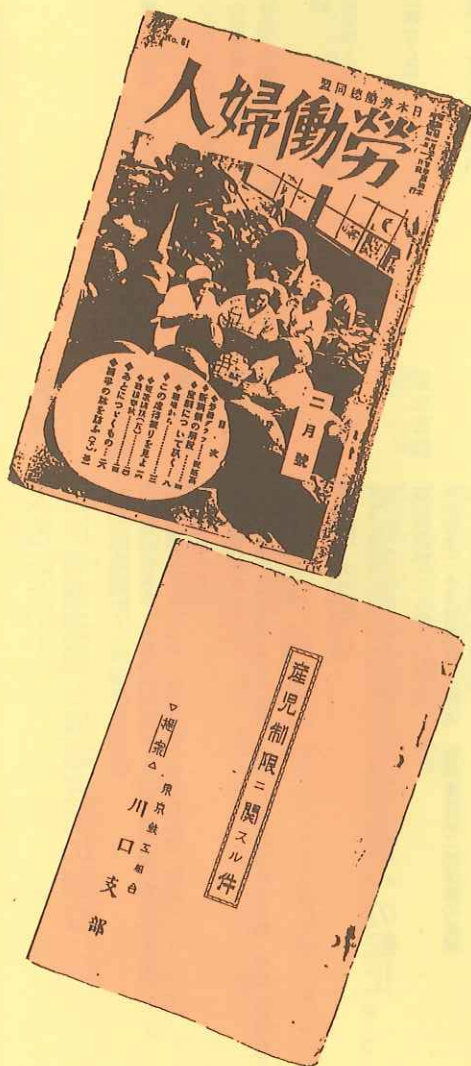
❖ 女たちの肉声を直接伝えるビラ、パンフ等第二次資料を最優先に収録し、次に運動体の機関誌類や官憲側の資料、また一般紙誌を駆使して、自由民権期以降、敗戦までの約七〇年間の激動の近代史を生きてきた女たちの実像に迫ることを目的に編集されました。

❖ 具体的には、婦選運動に代表される女権運動、これまで女性の視点からは捉えられなかった女性労働運動・無産婦人運動・職業婦人・産児制限・母子保護など生活・労働の現場での女性運動、長い歴史を持つ廃娼運動、官製婦人団体による翼賛運動について多数の資料を提供することによって明らかにします。本資料集によって近代日本史のひとつの「叛史」が浮かび上がるのではないのでしょうか。同時に「時局」下、ほとんどすべての女性運動が体制に統合され、侵略戦争を支え推進したという苦い史実を直視するために全編にわたって戦争協力の問題を取り上げました。

❖ 買春・女の政治参加・賃金差別・性的いやがらせ・反体制運動側にひそむ女性差別・産む産まないの自由・消費者としての主体性・体制側への吸収——女たちが自ら提起し解決しようとした問題は、「無産婦人」「職業婦人」など用語こそ違え、現代にも通底し、その活動はまさにフェミニズム運動の原点といえましよう。

❖ 本資料集が、現在多くの地域・研究機関で進みつつある女性史研究の最も基礎的な文献として多くの学究そして運動に携わる女たちに利用されることを願うものです。

編集部



日本女性運動資料集成

推せん言葉

女性史の論争を豊かに

米田佐代子（山梨県立女子短期大学教授）

❖ 歴史学界で女性史という分野がようやく注目されはじめたころ、女性史研究のための基礎的な資料はほとんど公刊されていなかった。それまで一級資料とされてきた公文書や政治・経済関係の記録類には、女性が登場することも少なかったし、女性の立場が考慮されることも皆無に近かったからである。ただでさえ研究条件にめぐまれない女性史研究者が、さらに地を這うような努力で新聞や雑誌から資料を掘り起こさなければならぬというのが、これまでの実情であった。

❖ 最近になっていくつかの資料公刊がすすんできたが、今回の『日本女性運動資料集成』は、女性史の中でもスポーツのあたりにくい労働運動や消費組合運動、水平社や日本共産党の活動、戦時下の翼賛運動までひろげた資料集になるということで、おおいに注目される。女性たちの運動にはジグザグのコースがあり、評価はむずかしい。戦時下の女性の動きなどは、このところ大きな論争となっているテーマである。この資料集は、そうした議論をさらに盛んにする上で役に立つと思うし、これが引き金となってより新しい資料の発掘がすすむこともあるだろう。そのことは、女性史だけでなく日本の近現代史像を見直すことにもなると思うのである。

女性運動史を功罪ともに見つめるために

上野千鶴子（東京大学文学部社会学科助教授）

❖ 日本には、戦前からつよい女性運動の伝統がある。「大和撫子」のステレオタイプに反して、日本の女性たちは、明治の初めから自由民権運動の一翼をになってきたし、その中から女権運動や男女同権思想も、早い時期に成立した。「青鞥」の女たちは、なにも突然変異の産物ではない。彼女たちの背後には、婦人参政権運動や、矯風会の廃娼運動などがあった。

❖ エリート的女性たちはばかりではない。あの米騒動をひきおこしたのは女の力だったし、女工の労働争議を組織する労働組合運動や、非合法の共産党の運動に身を挺する女性たちもいた。

❖ だが、女の運動は、いつでも男性支配を告発し、被害者を救済する運動ばかりとは限らない。一五年戦争下では、国策協力の大政翼賛体制にすすんで巻きこまれていったのも、女の運動だった。女性運動を、その功罪ともに見つめて冷静に振りかえる成熟した歴史的視点を、よつとよく持てる時点にわたしたちはいる。不二出版から刊行される『日本女性運動資料集成』はそのための、かつこの素材を提供してくれる。編集の労を多としたい。



●右から—
・一九七五年全日本婦人部の幹部たち
・一九二八年婦人消費組合協会の発会式

歴史的な刊行をよろこぶ 住井すすゑ（作家）



❖ 女性史というこれまででは、有名な、はなやかな女性を取り上げたものが多かった。今度刊行される『日本女性運動資料集成』は、底辺の女たち——女工や女給、娼妓、部落の女性などの活動を中心に集められている。一番大事な部門であるのに出版するには一番遠い、そうした出版がなされるのが、自分のことのように嬉しい。

❖ 全二〇巻の目次をみると、一九〇二年生まれのわたしには、自分の青春史を辿っているような気がしてくる。わたしは戦前も戦後も国の権力に真向かってきたけれど、思えばその歩みは単純ではなかった。『婦人戦線』の活動も中途半端で恥ずかしい気がするし、戦争反対に徹すべきだった農民運動がついに抵抗しきれず、国策に沿って行くのもこの目で見たことだった。

❖ 農民文学の会合で東京に行き、時の政治家にもねる作家たちの卑屈さにくやしい思いをしながら、まっくらな牛久沼沿いの径をあるいて帰ったのを覚えている。だが、わたし自身も無力で、思想のある童話を志すのが精一杯だった。

❖ この資料集は戦前を対象としているせいもあって、今の女性は「なんて不自由な時代だったのだろう」とあきれられるだろう。けれどもあながちそうでもない。なぜならいまだかつて天皇を頂点として、差別は厳然としてわたしたちの前に、社会秩序面で立ちはだかっていることだから——。これとの闘いの戦略・戦術のためにも、私たちは過去の失敗にも学ばねば……と思う次第である。

叛史としてのHER STORY

落合恵子（作家・女性著者の本の専門店ミス・クレヨンハウス主宰）



❖ 歴史（History）はいつも、彼の物語（His story）ばかりだった。そこには、女がいない。存在しながらも、消されてきた。

❖ 自由民権期以降から、敗戦までのおよそ八〇年間。激動の近代を、女たちがいかに、消されてきた一人称の自分を取り戻していったか。

❖ 暮らしの場で、労働の場で、家庭で、それぞれの女たちが繰り広げた運動の歴史は、そのまま、「叛」の緋文字を敢えて自らに受け入れた女たちの、個々のher storyの記録でもある。

❖ 彼女たちの日々を辿ることで、私たちは、私たちがいまだここに居るのか。どこに向かおうとしているかを再確認することができる。

❖ 被害性とはより、戦時の加害性も含め、女たちの確かな運動史を集めた本書は、決して過去完了したものではなく、私たちの今と未来に繋がる現在進行形の姿を映し出していると言えるだろう。

女性史研究のための宝庫

松尾尊光（京都橘女子大学教授）



❖ 日本近代女性史の各分野にわたって数々の業績をあげてこられた鈴木裕子さんが、このたび、長年の蓄積を生かして、女性運動の資料集成を編集して世に送られることになった。

❖ その内容は、時期でいえば自由民権期から一五年戦争期まで、分野でいえば、労働組合運動・社会主義運動・無産婦人運動・農村婦人運動・職業婦人運動・部落解放運動・産児制限運動・婦選運動等々多岐にわたる。とくに、これまで比較的研究のおくれていた戦時下の、女性労働運動や官製婦人団体、さらには国民精神総動員運動や勤労動員の関係資料が数多く含まれているのが注目される。

❖ 歴史を、あるいは歴史から学ぶには、直接に史料に当たるのが一番である。居ながらにして、これまで世に現われなかった重要な史料に数多く接する機会が与えられるのは、まったく有難い。近年女性史研究の進歩はめざましいものがあるが、そのさらなる発展に、このたびの運動資料集成の刊行が、大きく貢献することは、疑いをいれぬところである。

戦争と性差別の歴史を見つめなおす

土井たか子（衆議院議員）



❖ 敗戦の年、一六歳だった私は焼け野原に立ち、戦争が一番弱い女や子供を最も悲惨な目にあわせることを実感しながらも、新憲法が生まれ、民主主義が現実のものとなり、女性が初めて参政権を手にした——その新しい風をうけて帆をいっぱい張って大海原に突き進むような感じを抱きしめていた。

❖ しかし、実は戦争は、戦後は終わっていないかった。敗戦後五〇年近くたって初めて「従軍慰安婦問題」が大きく取り上げられるようになったのもその象徴的な事柄である。この問題こそ日本人の侵略戦争へのそして性差別への認識の問題なのではないか。

❖ 今回刊行される『日本女性運動資料集成』の編者が、「従軍慰安婦」問題で日本人の戦争と性の問題をさらに追及している鈴木裕子さんであることは偶然ではない。鈴木さんは人も知る女性労働運動史のエキスパートであるが、「従軍慰安婦」システムは日本固有の公娼制度にその根があるという歴史的観点から解明を試み、また戦争に協力することで参政権を得ようとした女性運動の旗手たちの限界を、敬愛のまなざしと共に見つめることを忘れない、これからの女性史研究を拓く学究である。日本の女たちが自分の立っている地点をしっかり見極め、自分の歴史を自分のものとするために、本書の刊行はまさに待望の書といえよう。



●右から——
一九三二年第三回メーデーで
検束された女性。左端は堺真柄
・演説会のポスターを貼る無産婦人同盟員。
左から菊川君子・小島よし子・菊川静子・堺真柄



●右から——
一九三二年関西紡織組合の街頭宣伝活動
・全国婦人同盟の岩内とみ奈
・一九三〇年鐘紡淀川工場の女工たちのデモ



●右から――
日本基督教婦人矯風会「公娼制度全廃教育運動十周年」
写真は久布白落実と矢島橋子(右)
・一九三〇年ロンドンの軍縮会議に
・八万の女性の署名を持参する平和使節の
林歌子とガントレット恒子(右)



女性と社会の未来を拓くために

金森トシエ △元・読売新聞社婦人部長、編集委員、前・県立かながわ女性センター館長▽

❖「過去に目を閉じる者は現在に対しても盲目になる」とは、第二次世界大戦終結四〇周年にあたってのワイッゼッガー・西独(当時)大統領の言葉としてあまりにも有名だが、それは新聞社で婦人部記者として約三〇年間働いた私の胸にも深く響く言葉であった。

❖さまざまな女性問題の取材を通して、それらが基本的には女性の権利・伝統的性別役割分業にかかわっていることへの私の思いは、近代の女性史をたどって紙面で「おかあさんの百年史」など幾たびかの企画連載を試みる作業へつながっていった。さらに第二の職場となった女性センターで神奈川女性史二巻を二〇年がかりで編む作業ともなった。

❖それは、過去の検証なしに現在への確かな認識は生まれ得ず、現在の確かな把握・認識なしに未来の展望を拓くことはできないと、私が痛感したからである。

❖大変な努力と綿密な作業で今回刊行される一〇巻は、女性と社会の未来を拓くための貴重な資料であり、関係機関はもとより心ある女性そして男性にも広く活用されることを強く願っている。

女性解放は二代にしてならず

高橋喜久江 △日本キリスト教婦人矯風会▽

❖「日本女性運動資料集成」の刊行を喜ぶもののひとりです。日本の男性優位社会にあって女性運動はとくく無視または軽視されてきたように思っていました。ひとつはこれは女性に限らないのかも知れませんが、運動の記録をのこすことに意を用いず、目前のなすべきことに多くの時間と労力を割いてしまつたことが、結果として記録することをおろそかにすることになり、後代の評価が高くない原因にもなるというわけです。これは自戒をこめての感想でもあります。

❖このたびの不二出版による刊行は、従来の不備を補正する点からも歓迎するものです。とくに今後の歴史を担う若い女性たちが、先輩たちが現代と比べものにならない苦境の中で――なにしろ女性性は選挙権も財産権も結社の自由も制限されていた時代なのですから――健闘してきた経緯に学び、次代に活かしてくださることを切望します。「女性解放は一代にして成らず」なのです。

私たちの人権確立の足あとを辿る

もろさわよう子 △女性史研究家▽

❖日本の近代は動く女たちにとっては、夜明け前の闇。

❖封建的男女差別のくびきにきびしくつながれたまま、資本制の利潤追求のくびきにもまたつながれた女たちは、文明開化の歯車を、奈落の底で牽引する働きを重くになわされている。

❖自由と平等、基本的人権の確立を目ざして世界史の近代は開幕しているが、日本においては、「王政復古」がかかげられ、うしろ向きに近代が開幕、その歪みのしわよせは、女たちにまたもつとも重い。

❖この重圧の中から光りを求めて身じろいだ女たちのうごきや解放像のありようなど、それに力ぞえた男たちのうごきもふくめて編集されている本資料集は、女たちの人権確立の足あとを辿る上で、欠くことのできない貴重な資料集であり、先人の志をいまにうつけつぎ、さらなる新しい状況を創りだすためにも参考になることすこぶる大きい。

「負の歴史」を繰り返さないために

加納実紀代 △読後史研究▽

❖なんともおどろくべき企画である。

❖ここに集められたぼう大な資料には、マスメディアで活字になっているものだけでなく、片々たるパンフレットやビラの類も多い。それらを収集し取捨選択し分類し、全一〇巻にまとめ上げる編者と版元の労をおもつとき、ぼう然とし慄然とし、ついでふかく頭をたれ、そして肅然として襟を正す――。

❖この一〇巻には、戦前日本の性抑圧と階級抑圧に抗して立ち上がった女たちの魂の叫びと苦闘の歴史がぎゅっと詰まっている。長年女性運動史発掘に努力を傾けてきた編者ならではの内容だが、さらに貴重なのは、民族抑圧に抗した朝鮮人など、在日外国人女性の闘いの軌跡や「昭和」一五年戦争と女性運動の関わりを示す資料が収められていることだ。

❖性抑圧に抗して闘ってきた女性たちが、つよまるファシズムのなかで後退戦を余儀なくされ、ついには戦時体制に飲み込まれて民族抑圧の荷担者となっていく――。とりわけこの過程を明らかにする第一〇巻は、残念ながら、過去の歴史としてでなく現在の意味を持つ。

❖日本のフェミニズムがこうした「負の歴史」を繰り返さないためにも、本資料集成の一日も早い刊行が待たれる。



●右から――
朝鮮大邱(テグ)地方の大日本国防婦人会、慰問袋作り
・一九四〇年「紀元二千六百年」を奉祝する
大日本国防婦人会のひとりと
「奉天」に到着した従軍看護婦

❖ 不二出版刊行の関連図書（復刻版）

福島四郎＝主宰

婦女新聞

全68巻・付録2

○明治33年～昭和17年刊
○付録①「婦人界三十五年」②記事執筆者索引
○A5判・B5判・上製・函入・総3万8500頁
○本体揃価格1100万円
公娼廃止・母性保護・女子教育・婦人参政権など
女性に関するありとあらゆる問題を四二年の長きに
わたって報道し論じた貴重資料の復刻版。

平塚らいてう・伊藤野枝＝主宰
青鞥
全52冊・別冊1 [品切]
○明治44年～大正5年刊
○別冊＝解説（井手文子）・総目次・索引
○A5判・並製・函入・総8824頁
○本体揃価格112万円
「元始女性は大陽であった（平塚らいてう）」「山の動く日
来たる（与謝野晶子）」で知られる「青鞥」は、女性の自我・
家からの解放を求め、女性解放史の原点となった。

長谷川時雨＝主宰

女人藝術

全48冊・別冊1・付録1 [品切]

○昭和3年～昭和7年刊
○別冊＝解説（紅野敏郎）・総目次・索引
○付録＝「女人大衆」36冊
○A5判・並製・函入・総9400頁
○本体揃価格115万円

すべて女性の手になる女性の雑誌として発刊され、
多くの女流作家を世に送り出すとともに、婦人の
文化的・政治的啓蒙誌として重要な役割を果たした。



婦選獲得同盟＝刊

婦選

全19巻・別冊1

○昭和2年～昭和16年刊
○別冊＝解説（松尾尊兌・兒玉勝子）・総目次・索引
○A4判・A5判・B5判・上製・総7572頁
○本体揃価格229万5000円
婦選運動の中核となって参政権・公民権・結社権の
獲得を目指した婦選獲得同盟の機関誌として
創刊された本誌は、戦前女権運動研究に必須の資料。



十一月號

日本救世軍＝編

ときこのころ

全21巻・補巻1・別冊1

○明治28年～昭和23年刊
○補巻＝「日本救世新聞」朝のひかり「のど書」
○別冊＝解説（室田保夫）・総目次・執筆者索引 全2巻
○A3・B4・A4判・上製・函入・総9042頁
○本体揃価格40万円

日本近代の社会問題・人権問題及び社会福祉の歴史を
語るのに不可欠な日本救世軍の機関紙である本誌は、
社会事業史・女性史・キリスト教史研究に必須の資料。

奥むめお＝主宰

婦人運動

全30巻・別冊1

○大正12年～昭和16年刊
○別冊＝解説（鈴木裕子）・総目次・索引
○A5判・B5判・上製・総9938頁
○本体揃価格30万円

常に生活者であり労働者である女性の立場にたち、
「婦人消費組合協会」「婦人セツルメント」「働く婦人の家」
設立などに尽力した職業婦人社の運動の記録。



輝ク

全2巻・別冊1

○昭和8年～昭和16年刊
○第2巻＝「輝ク部隊」海の銃後「海の勇士慰問文集」
○別冊＝回想（若林つや）・解説（尾形明子）・総目次・索引
○B5判・A5判・上製・函入・総1278頁
○本体揃価格2万5000円
長谷川時雨が組織した「輝ク会」の機関誌である本誌は、
当時のほとんどすべての女性作家・思想家・芸術家が
寄稿した十五年戦争下の女性文化人の状況を照らし出す。



廃娼雑誌社＝発行

廃娼

全1巻

○明治23年～明治24年刊
○解説（竹村民郎）・総目次・索引付き
○菊判・上製・総326頁
○本体揃価格9000円

各地の廃娼運動の状況を克明に伝え、同時に、
そうそうたるメンバーが廃娼論を展開している本誌は、
草創期の廃娼運動の足跡を辿る貴重資料である。



上毛青年社＝発行

上毛之青年

全2巻・別冊1

○明治22年～明治29年刊
○別冊＝解説（片野真佐子）・総目次・索引
○A5判・上製・総約1200頁
○本体揃価格3万6000円

群馬県西上州の政治的青年団体・上毛青年会の
機関誌である本誌は廃娼をかけた市民の手
による廃娼運動の先駆の記録として貴重である。



日本キリスト教婦人矯風会＝刊

婦人新報

全60巻・別冊1

○明治21年～昭和33年刊
○別冊＝解説（五味百合子）・総目次・索引
○菊判・上製・函入・総3万頁
○本体揃価格60万円

日本で最も古い歴史をもつ女性団体「日本キリスト教
婦人矯風会」の廃娼運動・婦人参政権運動など
人権・女権運動の軌跡を辿る基礎資料。

日本キリスト教女子青年会＝刊

女子青年界

全33巻・別冊1

○明治37年～昭和25年刊
○別冊＝解説（武田清子）・総目次・索引
○A5判・B5判・上製・総2万1866頁
○本体揃価格74万8000円

女性のための寄宿舎事業・託児所設置・婦人問題に
関する調査・研究・女工・女中の生活教育などを
「貫して行なった日本YWCAの活動を克明に記録。



体裁

A5判上製 函入各巻平均八〇〇ページ

全巻新組み 各巻解説付き

価格

本体価格……各1万5000円

本体揃価格……16万5000円

日本女性運動資料集成

全10巻別巻1 完結

配本予定

第1巻……思想・政治Ⅰ 第6回配本……一九九六年五月

第2巻……思想・政治Ⅱ 第7回配本……一九九六年一〇月

第3巻……思想・政治Ⅲ 第8回配本……一九九七年五月

第4巻……生活・労働Ⅰ 第2回配本……一九九四年五月

第5巻……生活・労働Ⅱ 第1回配本……一九九三年一〇月

第6巻……生活・労働Ⅲ 第3回配本……一九九四年一〇月

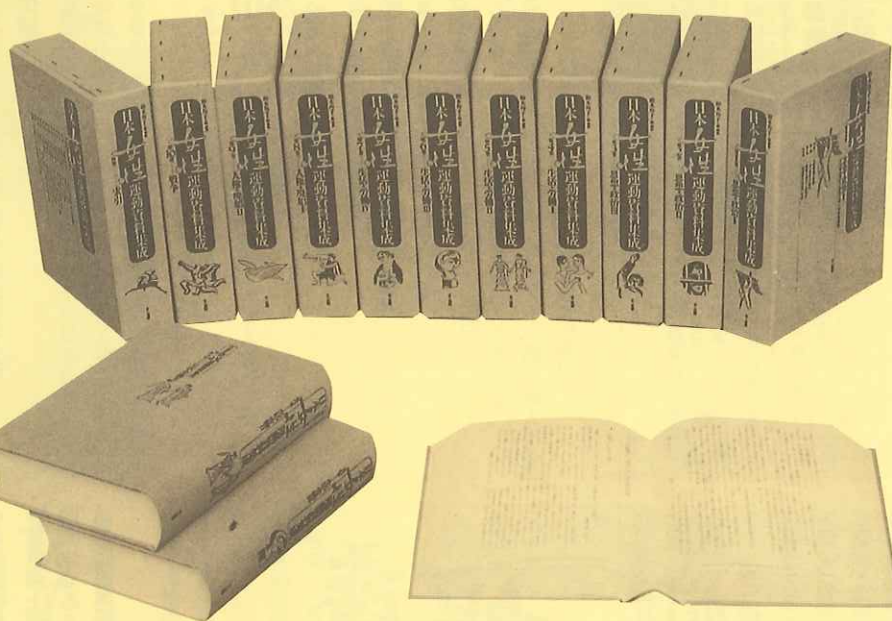
第7巻……生活・労働Ⅳ 第4回配本……一九九五年五月

第8巻……人権・廃娼Ⅰ 第9回配本……一九九七年一〇月

第9巻……人権・廃娼Ⅱ 第10回配本……一九九八年五月

第10巻……戦争 第5回配本……一九九五年一〇月

別巻……索引 第11回配本……一九九八年一〇月



●表紙写真・右から――

・自由民権期に女権論をもつて活躍した湘煙 岸田俊子

・初期の女性社会主義者大須賀里子と堀保子(右)

・一九二二年第二回メーデーで逮捕された橋浦はる

・奥むめお

・一九三三年喫茶店エデンの女給争議

・長野県水平社の「少女闘士」高橋くら子

・工場で働く女子挺身隊員

1995.1

●本カタログ中の表示価格は

全て消費税を含んでおりません。

●弊社は注文制です。

お近くの書店にご注文ください。

不二出版(株)

T1130023 東京都文京区向丘1-212

電話03-3812-4433

ファクシミリ03-3812-4464

振替001602294084